

Title	現代日本語における「カバー」の用法
Sub Title	
Author	唐, 林芳(Tō, Rinhō)
Publisher	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
Publication year	2020
Jtitle	日本語と日本語教育 No.48 (2020. 3) ,p.110- 110
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	大学院文学研究科日本語教育学分野修士論文要旨
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20200300-0110">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20200300-0110</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

〔大学院文学研究科修士論文〕

## 現代日本語における「カバー」の用法

唐 林芳

現代日本語において、外来語が重要な役割を果たしていることは言うまでもない。専門分野などにおいて使われるような難解で分かりにくい外来語が存在する一方で、平易な日本語の中で用いられる基本的な語も少なくない。本論文では、和語や漢語と類義関係を持ち、比較的よく用いられる外来語に注目して、個々の外来語の使用実態を明らかにすることを目的とし、「カバー」という外来語を研究対象として選んだ。

第1章は、現代日本語における外来語の位置づけに関連する先行研究の紹介とまとめであり、本研究の背景となる部分である。樺島忠夫(1981)、石綿敏雄(2001)、金愛蘭(2011)などの研究を紹介し、外来語の従来の位置づけ、計量的な使用実態、意味的観点から見た外来語という3つの側面から、現代日本語において外来語がどのような存在になってきているかについて述べた。

第2章では、英和辞典及び5点の小型国語辞典より語釈を抽出し、原語「cover」と外来語「カバー(する)」の意味用法を比較した。そして、国語辞典における意味の説明や分類にある問題点について検討した。

第3章では、現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)を用いて、ジャンル別に用例を調べ、「カバー(する)」の意味用法や、各ジャンルにおける使用頻度などについて論じた。そして、意味用法をさらに明らかにするために、「カバー(する)」と共起する副詞の使用や複合動詞の使用状況について調べ、「カバー(する)」の文法的な特徴について述べた。

意味用法については、「①ある物、またはある範囲の全体に行き渡る ②不足しているものの穴埋めをする。または不備がないように補う ③(肌や体型の問題などを)を見えなくする ④過去に発表された曲を、別の人による歌や演奏で再製作し、発表すること」の4つに分類した。そして、4つの意味用法は、「AとBがびったり重なる、或いは釣り合う・対応する」という意味合いで共通しており、AとBがどんな物なのか(具体物・抽象的な物)、また動作の性質がどうなのか(物理的に・抽象的に)によって、異なる意味用法が生まれてくると考えられること述べた。

副詞と共起する場合は、高程度・広範囲の意味を表す副詞や望ましい様態を表現する副詞がほとんどである。これらの副詞と共起することにより、また「～しきれない」「～しあう」の2つの複合動詞の形で用いることによって「カバーする」という動作の力がある範囲の全体まで届く、あるいは、「カバーする」という動作の力で全体の状態が理想に近づくという意味が明らかになった。

第4章では、「カバー(する)」と「覆う」「補う」「フォロー(する)」の三つの語と比較し、それぞれの意味特徴や実際の使われ方について述べた。

以上のように、本論文では国語辞典の検討やBCCWJによる用例分析、類義語との比較などを通して、外来語「カバー」の動詞としての用法を明らかにした。